

秋・三唱

環 真砂緒子

九月は……

茜の斜光を浴びて

歸る荷馬車の後を慕ふ

少年のおさない

感情です。

十月は……

新妻にあられもない

疑いをかけて

寂しがらせた姿です。

十一月は……

留學の子を

波の彼方に送った

母の……

波止場の感觸です。

詩人時代 昭和九年十月号

(小曲)